

## 第9章

### ペルー 一次産品経済の新展開

清水 達也

要約：農地改革や債務危機により停滞を余儀なくされたペルー農業は、1990年代の経済自由化改革以降再び成長軌道に乗り始めた。コメやメイズなど国内向け農産物の生産拡大と同時に、綿や砂糖など伝統的輸出農産物に代わって、野菜や果物など新たな輸出農産物が拡大している。一方、肥料など投入財やコムギ、大豆油など一部の農産物の輸入が拡大しており、ペルー農業の国際市場との結びつきは強まってきている。

キーワード：ペルー 統計 グローバリゼーション 農業 農産物 輸出

#### はじめに

ペルーでは20世紀半ばまで、農産物輸出は輸出総額の約半分を占める重要な外貨収入源であった。1960年代末に始まった農地改革と、それに続く1980年代前半の債務危機や1980年代末の経済危機などにより農業生産が停滞すると、農産物輸出が停滞し、輸出総額に占める割合も縮小した。しかし1990年代に入ると、経済自由化の進展とともに農業生産が拡大し、輸出も活発化してきている。本章ではペルー農業の最近の変化を農業生産、輸出、消費などの側面から統計情報を利用して分析し、国際市場との結びつきがどのように深まっているか考察したい。

#### 1. 農業生産

はじめに1970年以後の農業部門の変化を概観しよう。表1-Aからは、1990年代初めまでの農業部門の停滞がわかる。主要農作物収穫面積は、1970年代から80年代の半

ばまではあまり変化がない。1980年代後半に農業部門への融資の拡大により一時的に増えたものの、1990年代初めに農業銀行が解体されて融資額が大幅に減少すると、栽培面積も縮小している。総生産は1970年代に比べると1980年代以降はわずかに増えているが、対GDP比では大きな変化はない。

表1 - A 農業部門主要指標(1970～1994年)

	主要農作物 収穫面積(1)	総生産(2)	対GDP比	融資額
	1000HA	1979年ソル	%	1990年ソル
1970	1,349	358,105	14.2	467,380
1971	1,354	365,267	13.9	471,642
1972	1,277	356,501	13.2	513,333
1973	1,271	357,927	12.6	527,197
1974	1,284	371,170	11.9	542,456
1975	1,251	371,046	11.5	524,011
1976	1,259	376,612	11.5	457,143
1977	1,265	376,235	11.4	423,009
1978	1,194	370,592	11.2	324,173
1979	1,261	385,045	11.0	316,031
1980	1,182	362,630	9.9	405,225
1981	1,341	395,416	10.4	401,366
1982	1,351	404,160	10.6	383,376
1983	1,216	365,230	11.0	325,274
1984	1,311	402,598	11.5	429,503
1985	1,307	414,334	11.6	391,012
1986	1,371	432,291	11.1	640,677
1987	1,678	460,777	10.9	629,829
1988	1,745	493,391	12.7	136,155
1989	1,757	465,761	13.6	117,797
1990	1,319	433,437	13.4	52,231
1991	1,416	447,134	13.5	43,599
1992	1,170	418,965	13.0	24,592
1993	1,347	443,684	12.8	33,011
1994	1,229	504,912	12.9	45,011

出所 Instituto Nacional de Estadística (INEI) (1995) *PERU: COMPENDIO ESTADISTICO 1994 - 95*. TOMO 2 p. 107

注 (1) 主要農産物(8分類31品目)の収穫面積  
(2) 農業、狩猟、林業の総生産

表1 - B 農業部門主要指標(1991～2001年)

	主要農作物 収穫面積(3)	総生産(4)	対GDP比	融資額(5)
	1000HA	1994年100万 ソル	%	1994年1000ソ ル
1991	1,800	6,672	8.0	409,102
1992	1,562	6,066	7.3	230,759
1993	1,757	6,614	7.6	309,747
1994	1,972	7,487	7.6	427,549
1995	2,090	8,202	7.7	536,806
1996	2,252	8,630	7.9	752,791
1997	2,331	9,099	7.8	929,016
1998 P/	2,480	9,240	7.9	1,022,535
1999 P/	2,612	10,325	8.8	942,378
2000 P/	2,755	10,968	9.0	954,982
2001 P/	2,653	10,892	9.0	845,428

出所 INEI (2002) *PERU: COMPENDIO ESTADISTICO 2002*. p. 377

注 (3) 主要農作物(8分類86品目)の栽培面積

(4) 農業、狩猟、林業の総生産

(5) 商業銀行と小規模農村金融(Cajas Rurales)の合計額

P/ 速報値

同じ項目を別の統計シリーズでみた表1 - Bからは、1990年代の農業生産拡大がわかる。1990年からの経済自由化改革により経済が安定すると、国全体の経済活動が活発化した。農業部門への融資も拡大し、収穫面積、総生産とも急速に拡大した。1992年から2001年の9年間に収穫面積は約7割、総生産は約8割増えている。

つぎに個別の作物について、具体的にどれくらい生産が変化しているかみてみよう。表2、3は2000年時点で収穫面積が大きな作物のうち、1970年以降のデータが存在しているものを選んでそれぞれの収穫面積と生産量を10年ごとに取り出して比較したものである。このうち、コメ、ジャガイモ、メイズ、コムギ、マメは国内向け作物、コーヒー、綿花、サトウキビは輸出向け作物である。メイズは飼料用と食用があるがここでは飼料用のみを取り上げている。10年ごとに分けたのは、1970年代は農地改革による停滞、1980年代は債務危機による停滞、1990年代は自由化後の拡大にだいたい対応していると考えたからである。

表2 主要作物の収穫面積

		収穫面積（ヘクタール）				増加率			
		1970	1980	1990	2000	1970-80	1980-90	1990-2000	1970-2000
国内向け	コメ	140,395	102,532	184,758	287,113	-27%	80%	55%	105%
	ジャガイモ	315,195	210,082	146,435	284,671	-33%	-30%	94%	-10%
	メイズ	153,700	132,111	173,706	269,777	-14%	31%	55%	76%
	コムギ	136,230	82,129	81,578	146,709	-40%	-1%	80%	8%
	マメ	65,780	58,134	55,728	75,806	-12%	-4%	36%	15%
輸出向け	コーヒー	113,442	152,731	162,661	228,269	35%	7%	40%	101%
	綿花	143,825	147,999	138,330	89,243	3%	-7%	-35%	-38%
	サトウキビ	48,212	49,137	48,420	64,814	2%	-1%	34%	34%

出所 INEI (1992). *Peru: Compendio Estadística 1992-93*.  
 Instituto Cuánto (2003). *Peru en números 2003*.

表3 主要作物の生産量

		生産量（トン）				増加率			
		1970	1980	1990	2000	1970-80	1980-90	1990-2000	1970-2000
国内向け	コメ	586,721	441,233	966,101	1,892,102	-25%	119%	96%	222%
	ジャガイモ	1,929,470	1,511,933	1,153,979	3,273,816	-22%	-24%	184%	70%
	メイズ	388,057	317,397	480,784	959,705	-18%	51%	100%	147%
	コムギ	125,374	77,148	99,621	189,005	-38%	29%	90%	51%
	マメ	53,259	47,689	46,055	69,790	-10%	-3%	52%	31%
輸出向け	コーヒー	65,386	86,177	81,142	158,283	32%	-6%	95%	142%
	綿花	247,804	264,554	238,971	153,786	7%	-10%	-36%	-38%
	サトウキビ	7,530,949	5,598,087	5,946,822	7,132,043	-26%	6%	20%	-5%

出所 表2に同じ。

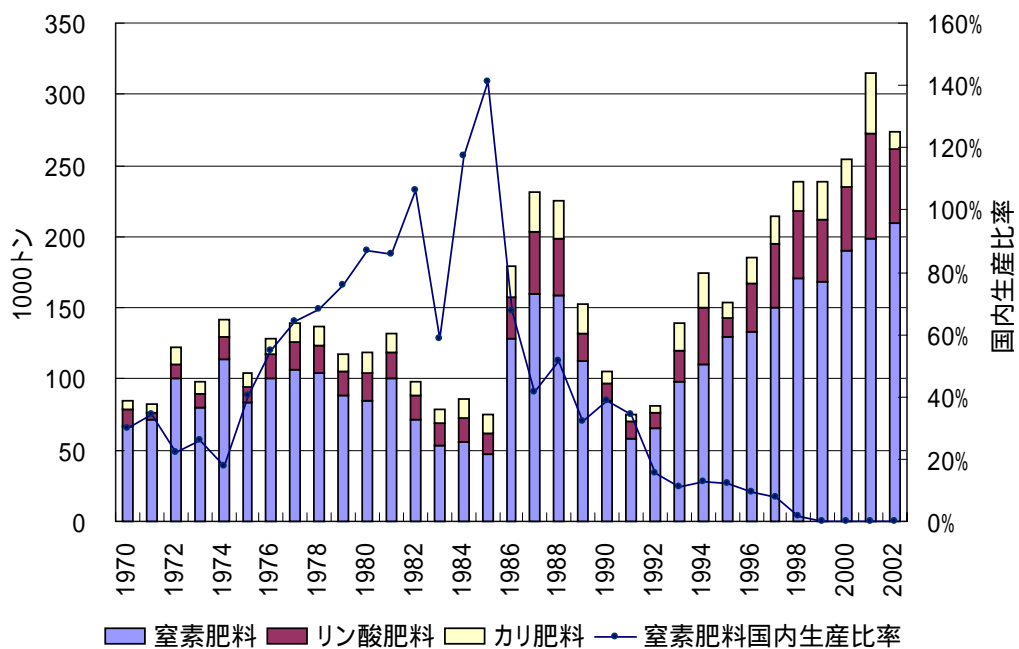
収穫面積について1970年から2000年の変化率をみると、コメ、メイズ、コーヒーは2倍前後まで大きく拡大しているのに対して、綿花は4割近く縮小している。年代ごとにみると、1970年代は国内向け作物が縮小したのに対し輸出向けがやや拡大、1980年代はコメ、メイズ、コーヒーを除き縮小、1990年代は綿花を除き拡大している。

生産量については、コメ、メイズ、コーヒーは30年間に2~3倍以上に拡大しているのに対して、綿花は6割まで縮小している。それぞれの作物について年代別にみると、1970、80年代の縮小・停滞に比べ、1990年代の拡大が明らかであり、収穫面積と同じ傾向を示している。ところが収穫面積と生産量を照らし合わせると、ジャガイモは、30年の間に収穫面積が1割縮小したが、生産量は7割拡大している。逆にサトウキビは、面積が3割強拡大したにもかかわらず、生産量はわずかに減っている。ジャガイモの場合、1990年代に新しい品種の普及が進み収量が向上したのに対して、サトウキビは1970年代に農地改革の影響で大農場が解体され収量が低下したものと考えられる。

農業生産の傾向は、図1に示した肥料の消費からも知ることができる。1980年代半ばに減少した消費量は、1980年代末にかけていったん大きく拡大する。しかし1990年代

初めにもう一度落ち込み、その後は拡大している。これは、1980年代半ばの債務危機、1980年代末の農業部門への融資拡大、その後の経済危機、そして1990年代後半の農業部門の拡大に対応している。窒素肥料の国内生産比率は、1980年代半ばには100%を超えたもののその後は急速に低下した。現在は窒素、リン酸、カリ肥料ともほぼ全量を輸入に依存している。

図1 肥料の消費量

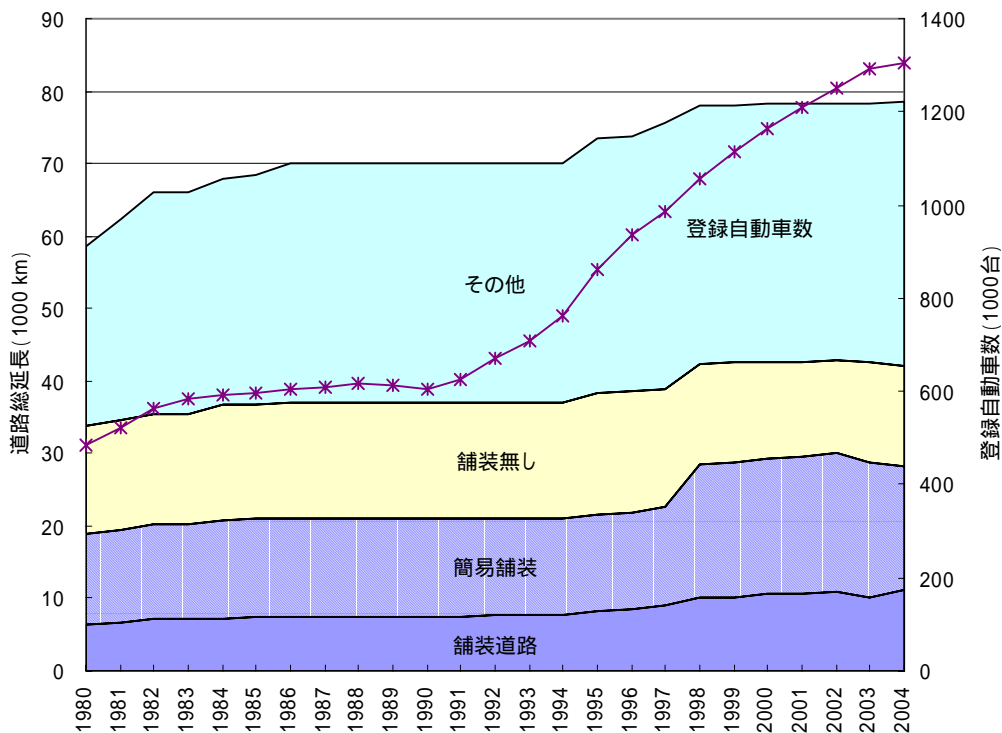


出所 FAOSTATのデータより筆者作成。詳細なデータを付表1に掲載。

農業生産の拡大は交通インフラの発達とも関わると考えられる。図2は道路の総延長と内訳、そして登録自動車数を示したものである。道路の延長についてはそれほど変化が無いものの、1990年代の後半に「舗装無し」や「その他」(多くが農村内や農村をつなぐ道路と考えられる)が建設され、その後「舗装道路」や「簡易舗装」に整備されたことが確認できる。登録自動車数については、輸入自由化が進んだ1990年代に入って増加したことが分かる。これは主に日本の中古自動車の輸入が拡大したためである。その多くを占めるワンボックス・タイプの貨物自動車は旅客用に改造され、都市内だけでな

く、都市と農村をつなぐ交通手段として重要な役割を果たしている。

図2 道路の総延長と登録自動車数



出所 INEI (1995). *Peru: Compendio Estadístico 1994-95*. Cuanto (2003). *Perú en números*. 運輸通信相ホームページ ([www.mtc.gob.pe](http://www.mtc.gob.pe))。詳しいデータは付表2に掲載。

## 2. 農産物輸出

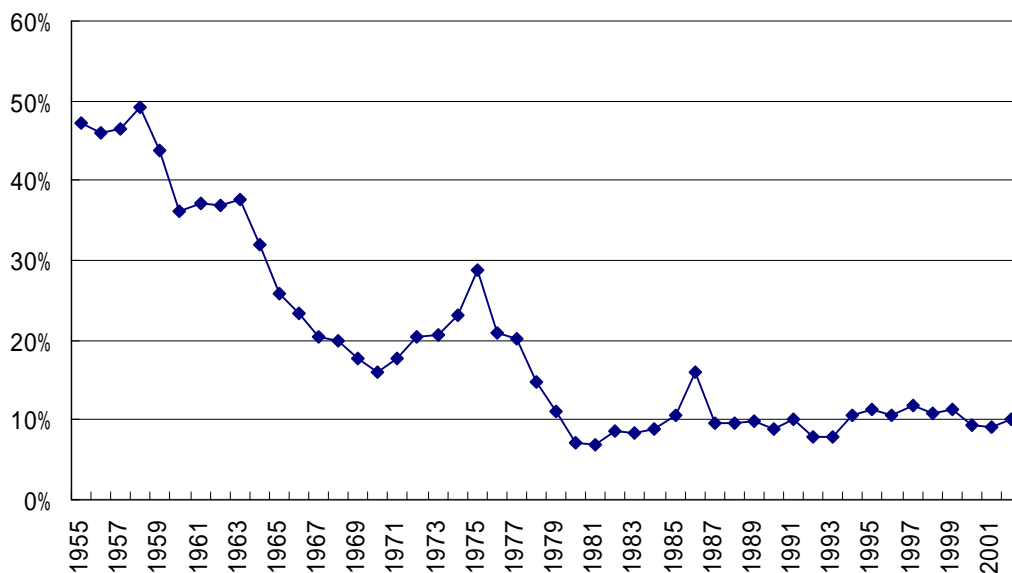
図3は輸出総額における農産物輸出額の割合を示したものである。1950年代は輸出総額の約半分を農産物が占めていた。その内訳は綿、砂糖、コーヒーのいわゆる伝統的輸出農産物である。1970年代半ばに砂糖の輸出が急増した時期を除いて、その割合は1980年代初めまで低下し、それ以降は10%前後にとどまっている。

主要農産物を分類して輸出額を示したのが図4である。伝統的輸出農産物を、輸出額が減少している綿・砂糖と、増加しているコーヒーに分けた。また、新たな輸出農産物

(非伝統的輸出農産物)のうち輸出額の大きな缶詰・生鮮アスパラガスとマンゴをとりあげた。この表から、コーヒー以外の主要輸出農産物が、従来の綿・砂糖から、アスパラガスやマンゴなどの非伝統的輸出農産物に代わっていることが確認できる。特に1990年代から2000年代にかけては、アスパラガスとマンゴの輸出額が順調に増加しているのに対して、綿と砂糖は縮小・低迷を続けている。

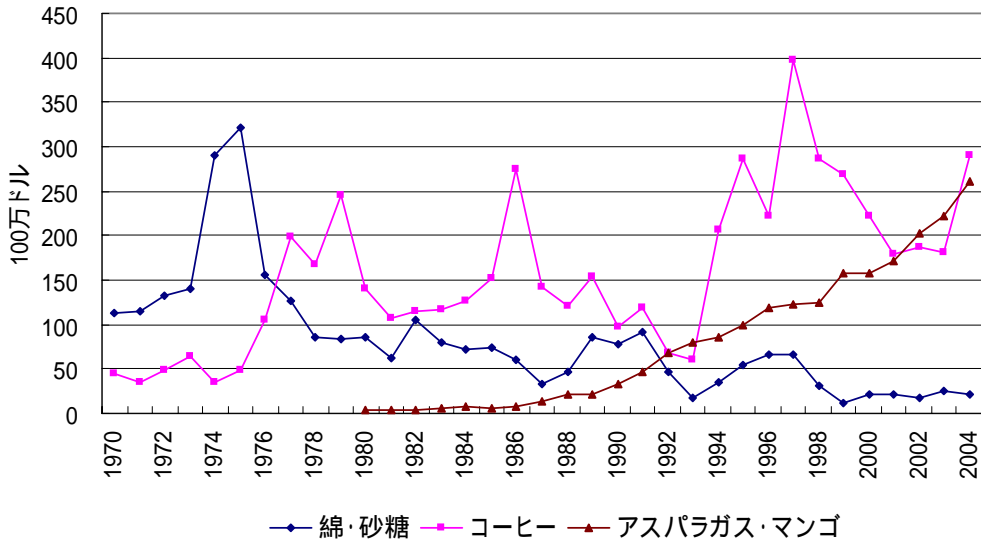
新たな輸出農産物のそれぞれの輸出額を示したのが図5である。缶詰アスパラガスが1980年代末から、生鮮アスパラガスが1990年代半ばから、マンゴが1990年代末から増加している。2002年にはアスパラガスの缶詰と生鮮が並び、その後は缶詰が横ばいなのに対して生鮮は増加を続けている。2004年時点の農産物輸出額はコーヒー2億9000万ドル、生鮮アスパラガス1億4000万ドル、缶詰アスパラガス7900万ドル、マンゴ4300万ドル、砂糖1500万ドル、綿600万ドルの順となっている。

図3 農産物輸出額の対輸出総額比



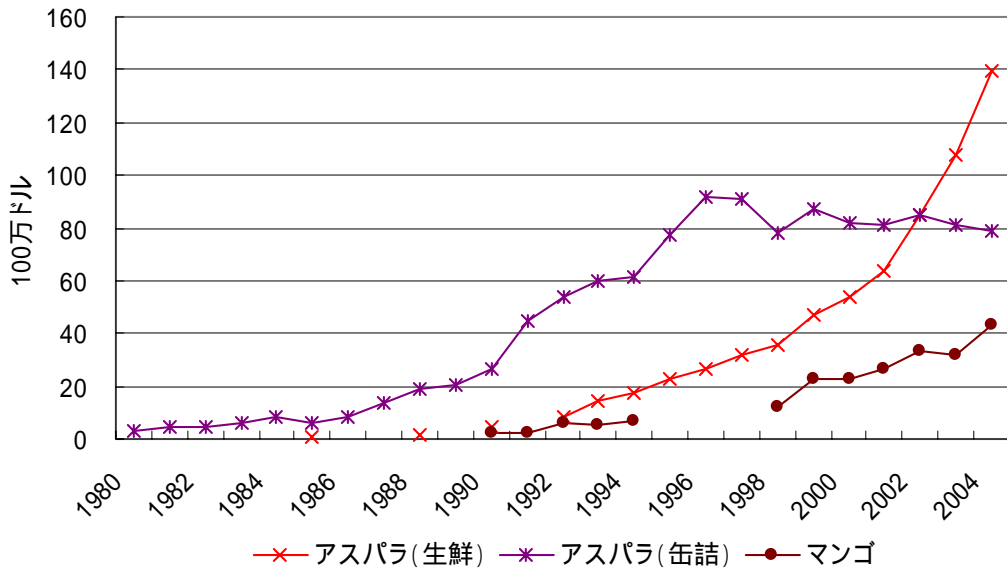
出所 INEI. *Perú Compendio Estadística*.各年版、Cuánto. *Perú en números*.各年版を使い筆者作成。詳しいデータを付表3に掲載。

図4 主要農産物の輸出額



出所 INEI, Perú: Compendio Estadístico 各年版、FAOSTAT、Global Trade Atlas をもとに筆者作成。  
 詳しいデータを付表4に掲載した。

図5 非伝統的農産物の輸出額



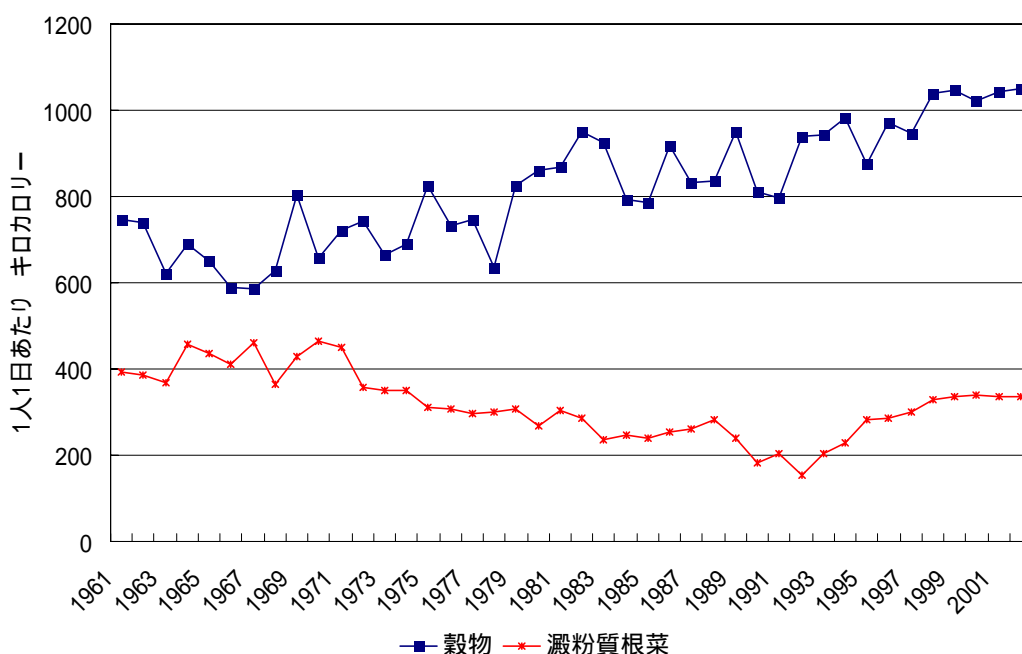
出所 INEI, Perú: Compendio Estadístico 各年版、FAOSTAT、Global Trade Atlas をもとに筆者作成。

### 3. 主食の変化と供給

既に述べたような1970年代、1980年代の農業部門の停滞と1990年代以降の拡大は、食料の消費にどのような変化をもたらしたのだろうか。FAOSTATのFood Balance Sheetsを活用して、その影響をみてみよう。

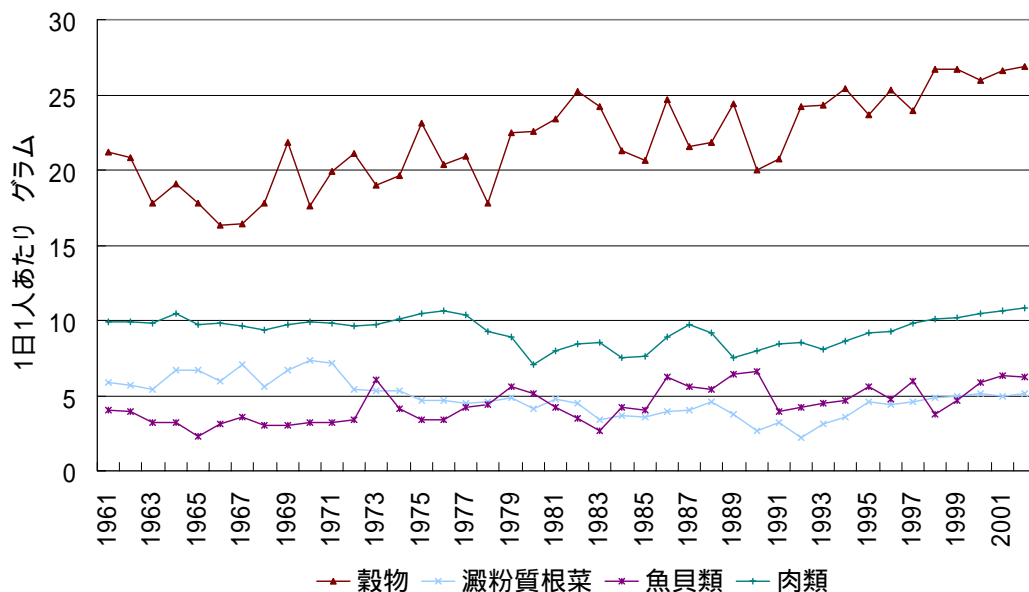
まず、穀物、根菜といった品目の分類ごとの栄養摂取量の変化をみる。図6は1人1日あたりの摂取カロリーについて食品の分類ごとに示したものである<sup>1</sup>。注目されるのは、穀物からのカロリー摂取量が増加しているのに対して、ジャガイモなどの澱粉質根菜(starchy roots)からの摂取量が減少していることである。図7は1人1日あたりのタンパク質の摂取量を示したものである。カロリー摂取量と同様に穀物からのタンパク質の摂取量が増加しているのに対して、肉類、澱粉質根菜、魚貝類からの摂取量にはっきりとした傾向は認められない。

図6 カロリー摂取量



出所 FAOSTAT, Food Balance Sheetsより筆者作成。

図7 タンパク質摂取量



出所 FAOSTAT, Food Balance Sheetsより筆者作成

1 人あたりの消費量・摂取量を主な品目にわけてみたのが表4である。年間消費量をみると、穀物ではコメ、メイズ、そのほかでは大豆油、鶏肉、卵の消費量が大きく増加している。特にコメの消費量は1961年の20キロから2002年は48.9キロと約2.5倍に増加しており、カロリー源としても最も重要な食品となっている。消費量が減少しているのはジャガイモで、表中で最も多かった1970年と比べると2002年には3割以上減少している。

つぎに、穀物のうちコムギ、コメ、メイズの3つの主要品目を取り上げて、それぞれどのように供給されているかをみた。なお、いずれの品目もほとんど輸出されていない。コムギの場合(図8)、国内総供給量はほぼ右肩上がり増加しているのに対し、生産量は1960年代からほとんど変わっていない。現在は総供給の9割以上を輸入に依存している。コメ(図9)の動向はコムギと対照的である。総供給の増加に対応するように、国内生産量も増加している。1990年代に入って輸入が増加しているが、1990年代後半から減少しており、国内での増産により需要をまかなう構造になりつつある。メイズ(図10)の場合、総供給の増加は国内生産と輸入の両方の増大に支えられている。特に1990年代以降、この傾向がはっきりしている。図11に主要農産物の輸入量を示したが、こ

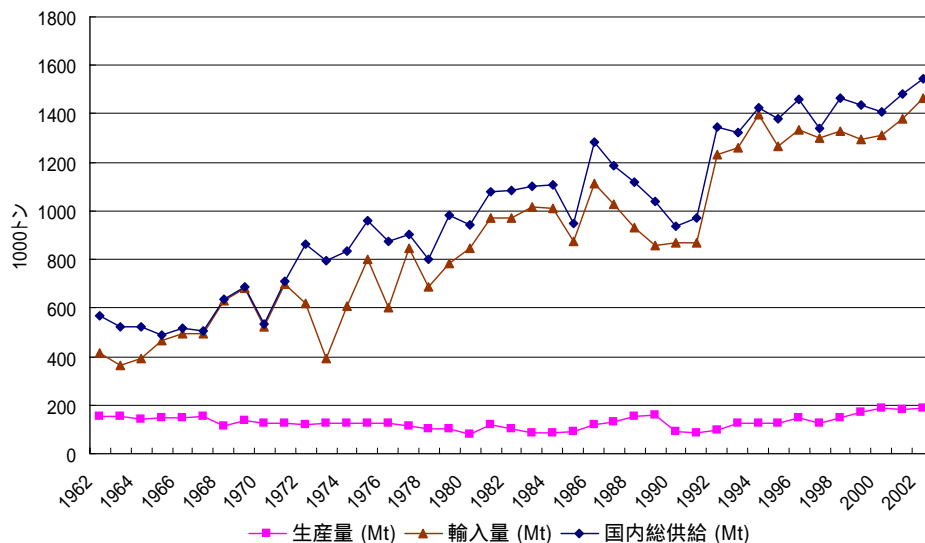
こでも 1980 年以降、コムギ、飼料用メイズ、大豆粕、大豆油の輸入が拡大傾向にあることが確認できる。

表4 1人あたり消費・摂取量

	消費量(年間、キロ)					カロリー(1日あたり、キロカロリー)				
	1961	1970	1980	1990	2002	1961	1970	1980	1990	2002
コムギ	54.1	38.2	52.9	42.2	55.2	406	304	370	288	374
コメ(精米換算)	20.0	26.6	29.2	40.9	48.9	208	276	302	424	490
オオムギ	15.1	9.1	4.2	1.6	4.1	101	61	38	14	37
メイズ	0.0	0.0	14.0	8.1	13.4	0	0	136	79	131
キャッサバ	28.5	30.0	19.0	12.4	25.1	127	133	84	55	111
ジャガイモ	80.0	102.2	55.5	32.7	69.3	216	276	151	89	187
サツマイモ	11.3	10.8	5.7	6.7	6.5	36	34	18	21	21
砂糖(粗糖換算)	26.0	30.9	26.7	31.6	36.5	254	301	260	308	357
大豆油	0.6	0.9	2.4	2.2	3.7	14	22	57	52	88
トマト	2.6	4.0	3.5	3.6	4.4	2	2	2	2	3
タマネギ	5.1	10.8	5.7	5.3	12.1	6	12	6	6	14
オレンジ	10.7	16.6	5.2	5.5	9.4	5	6	9	12	16
バナナ	30.8	55.0	23.5	19.2	33.7	12	18	5	6	10
牛肉	6.7	7.1	3.7	4.2	4.1	70	125	53	44	77
豚肉	4.0	3.5	2.5	2.4	2.7	21	22	12	13	13
鶏肉	2.1	4.3	4.9	6.7	12.6	15	13	18	17	17
牛乳(バターを除く)	49.3	75.1	62.2	42.9	50.5	10	20	23	31	58
卵	1.5	1.8	2.6	3.5	4.6	74	100	79	66	84
外洋魚	8.7	6.3	17.6	15.1	10.4	19	15	25	30	24
その他海洋魚	0.3	0.5	1.5	0.2	3.3	1	1	3	0	6
合計						2140	2198	2046	1933	2571

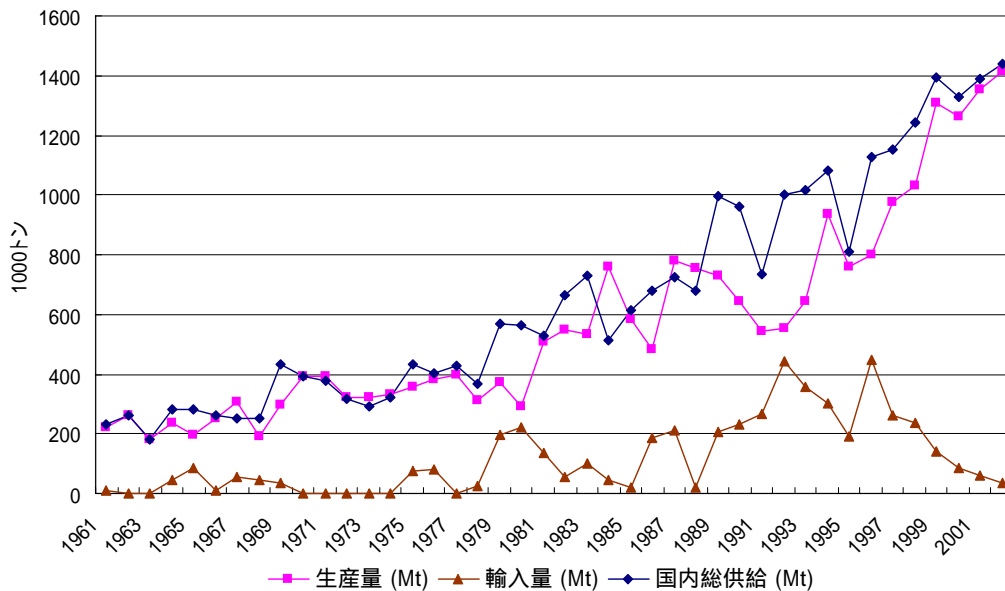
出所 FAOSTAT, Food Balance Sheets.

図8 コムギの総供給



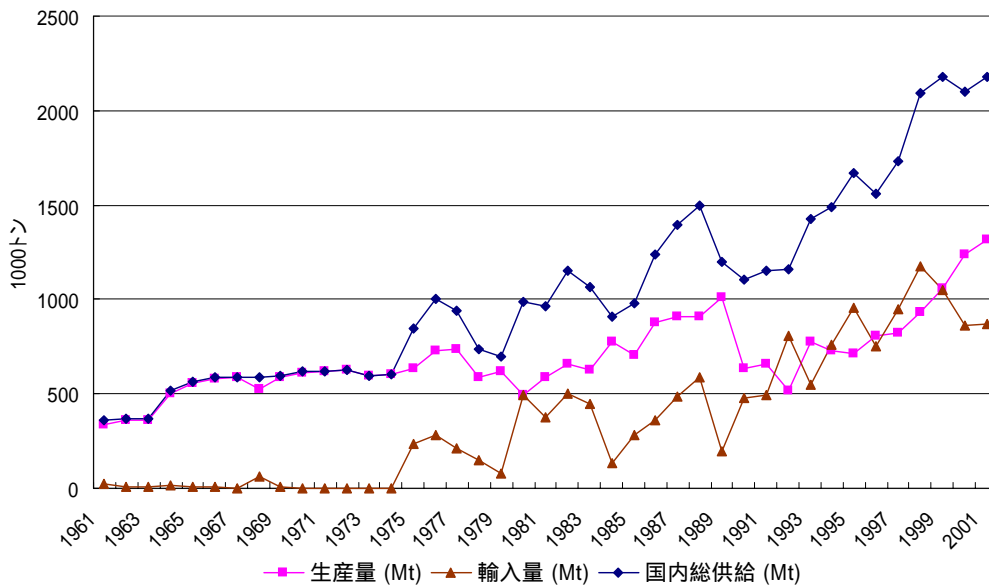
出所 FAOSTAT, Food Balance Sheetsより筆者作成

図9 コメの総供給



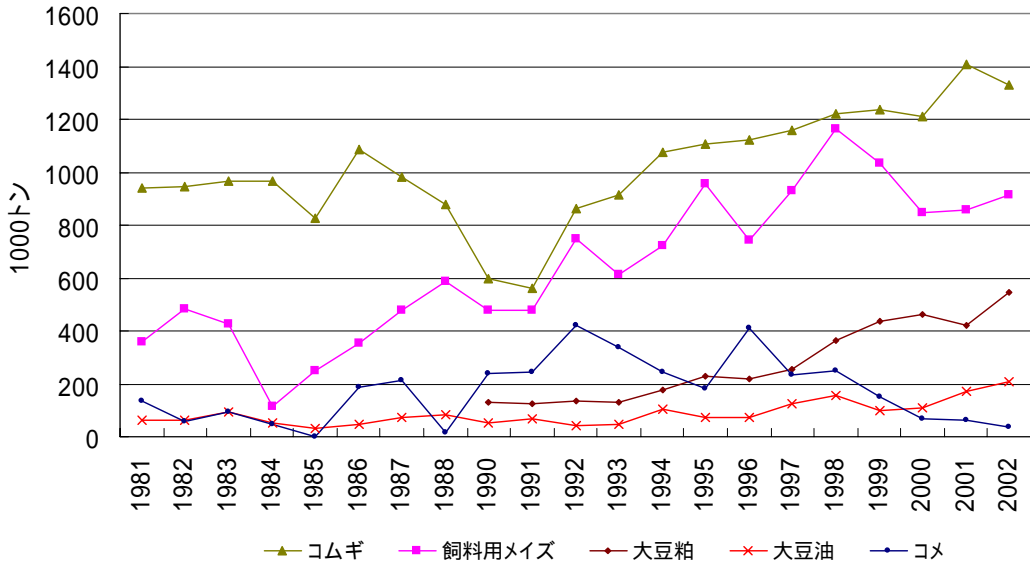
出所 FAOSTAT, Food Balance Sheetsより筆者作成

図10 メイズの総供給



出所 FAOSTAT, Food Balance Sheetsより筆者作成

図11 主要農産物輸入量



出所 INEI(1989). Perú: Compendio estadístico 1989, INEI (1995). Perú: Compendio estadístico 1990-93, Cuánto (2003). Perú en números.

#### 4. 国内の地域差

ペルーの国内は地理的条件により大きく海岸地域（コスタ）、山間地域（シエラ）、熱帯低地地域（セルバ）に分類され、それによって農業の構造が異なる。おおざっぱに分けると、主要都市が位置するコスタでは綿花やサトウキビなど輸出用作物とコムなど一部の食料作物、標高が高くほとんどが農村部であるシエラではジャガイモやマメを中心とする食料作物を中心に栽培されている。セルバは1970年以降に農業開発が進んだ地域で、コスタから作物が導入された。ここでは地域別の人口、作物、農産物の用途の違いをみる。

表5に人口センサスがあった各年と、2003年の地域別人口、それぞれの増加率、全体における割合を示した。地域によって異なるが、それぞれの人口の6~7割が経済活動人口（14歳以上の人口）となっている。増加率をみると、セルバで最も高く、コスタ、シエラの順に低くなる。都市部と農村部<sup>2</sup>に分けてみると、都市部は農村部を大きく上回っている。このデータから、シエラからセルバ、コスタへ、そして農村部から都市部へ人

口移動が進んでいることが推察される。総人口に対する割合は、地域別ではコスタとセルバの割合が増加しているのに対して、シエラは減少している。都市と農村部に分けた場合には、1962年までは農村人口が上回っていたが1972年までに逆転し、現在は総人口の4分の3近くが都市部に住んでいる。シエラや農村部の人口の比率は減少しているものの、その数は1993年からの10年間でそれぞれ15%、14%増加しており、農地に対する人口圧力は依然強まりつつあることが考えられる。

表5 地域別人口

人口 (1000人)						経済活動人口の割合(1)
	1961	1972	1981	1993	2003	
総人口	9,907	13,538	17,005	22,049	27,148	67.9%
海岸 (コスタ)		6,551	8,458	11,424	14,249	71.3%
山間 (シエラ)		6,052	6,775	7,948	9,116	64.5%
熱帯低地 (セルバ)		935	1,772	2,677	3,783	62.4%
都市部(2)	4,698	8,058	11,092	15,459	19,638	71.3%
農村部	5,209	5,480	5,913	6,590	7,510	61.7%
増加率		61-72	72-81	81-93	93-03	
合計		37%	26%	30%	23%	
海岸 (コスタ)			29%	35%	25%	
山間 (シエラ)			12%	17%	15%	
熱帯低地 (セルバ)			90%	51%	41%	
都市部(2)			38%	39%	27%	
農村部			8%	11%	14%	
総人口に対する割合	1961	1972	1981	1993	2003	
海岸 (コスタ)		48.4%	49.7%	51.8%	52.5%	
山間 (シエラ)		44.7%	39.8%	36.0%	33.6%	
熱帯低地 (セルバ)		6.9%	10.4%	12.1%	13.9%	
都市部(2)	47.4%	59.5%	65.2%	70.1%	72.3%	
農村部	52.6%	40.5%	34.8%	29.9%	27.7%	

注(1)2001年における14歳以上の人口の総人口に占める割合。

注(2)住宅が100戸以上集まっているところ、または地区の中心地を指す。

出所 1961 Ministerio de Hacienda y Comercio (1966). *Anuario Estadístico del Perú*. p. 277、1972-2003 Instituto Cuánto (2003). *Perú en números 2003*. p. 215, p. 578.

表6 主要農産物の収穫面積と主な用途(1994年)

	収穫面積		主な用途(収穫面積の割合)			
	(Ha)	対全国比	販売 (市場)	販売 (市場以外)	販売 (種用)	自給
全国						
コメ	135,346		69.7%	10.3%	0.5%	19.5%
飼料用メイズ	226,350		50.8%	14.0%	0.3%	34.9%
バナナ	154,563		41.3%	13.8%	0.0%	44.9%
ユカ(キャッサバ)	129,251		29.0%	7.6%	0.1%	63.3%
ジャガイモ	340,292		25.0%	3.8%	1.5%	69.7%
澱粉質メイズ	247,365		14.0%	2.5%	0.1%	83.4%
オオムギ	125,879		9.6%	1.5%	0.3%	88.6%
海岸(コスタ)						
コメ	42,872	31.7%	74.2%	20.1%	0.6%	5.1%
飼料用メイズ	83,174	36.7%	62.5%	25.6%	0.3%	11.6%
バナナ	14,320	9.3%	26.7%	52.4%	0.0%	20.9%
ユカ(キャッサバ)	8,495	6.6%	40.4%	30.6%	0.0%	29.0%
ジャガイモ	10,970	3.2%	63.5%	31.1%	0.3%	5.1%
澱粉質メイズ	3,790	1.5%	52.5%	11.2%	0.2%	36.1%
オオムギ	390	0.3%	56.5%	6.3%	0.7%	36.5%
山間(シエラ)						
コメ	3,696	2.7%	60.6%	5.4%	0.1%	33.9%
飼料用メイズ	26,099	11.5%	13.9%	3.0%	0.1%	83.0%
バナナ	10,005	6.5%	22.2%	6.1%	0.0%	71.7%
ユカ(キャッサバ)	16,728	12.9%	12.4%	3.6%	0.0%	84.0%
ジャガイモ	328,117	96.4%	23.7%	2.9%	1.5%	71.9%
澱粉質メイズ	238,285	96.3%	12.9%	2.2%	0.1%	84.8%
オオムギ	125,438	99.6%	9.4%	1.5%	0.3%	88.8%
熱帯低地(セルバ)						
コメ	88,779	65.6%	68.0%	5.8%	0.4%	25.8%
飼料用メイズ	117,078	51.7%	50.8%	8.1%	0.4%	40.7%
バナナ	130,239	84.3%	44.3%	10.1%	0.1%	45.5%
ユカ(キャッサバ)	104,029	80.5%	30.8%	6.3%	0.1%	62.8%
ジャガイモ	1,205	0.4%	50.9%	4.2%	0.3%	44.6%
澱粉質メイズ	5,290	2.1%	37.7%	5.8%	0.1%	56.4%
オオムギ	50	0.0%	3.2%	8.9%	0.0%	87.9%

出所 INEI (1996). *III Censo nacional agropecuario*. p. 229-234.

表6は主要農産物の収穫面積と主な販売先(収穫面積による割合)をまとめたものである。全国のデータをみると、作物によって主な用途に違いがあることがわかる。コメや飼料用メイズは主に販売するために栽培されるのに対して、オオムギ、澱粉質メイズ、ジャガイモ、ユカ(キャッサバ)は自給用が中心である。つぎに、地域ごとの用途の違いをみると、コスタでは市場向けが多いのに対し、シエラでは自給用が多い。単に、自給用の割合が高い作物が主にシエラで作られているというのではない。同じ作物でも、コスタでは主に市場での販売用に、シエラでは自給用に作られる。例えば飼料用メイズは3地域で比較的分散して栽培されているが、自給用の割合はコスタで12%、シエラで

83%、セルバで41%と大きな開きがある。つまり、作物によって、そして地域によって、作物の用途に大きな差があることが分かる。

## 5 . おわりに

一次産品輸出に依存していたペルー経済は、1950年代の時点で既に国際市場と深く結びついていた。しかしそれに続く経済の混乱は農業の停滞をもたらした。そのため、主要な輸出農産物であった綿と砂糖の輸出が減少しただけでなく、国内消費を補うためにコムギやメイズの輸入が拡大した。輸出面での結びつきは減ったものの、輸入において国際市場との結びつきを増したのである。

1990年代に入り、経済自由化改革とともに農業部門も拡大傾向に転じた。コメ、メイズなど国内向け作物の生産が増加したほか、コーヒーに加え、野菜や果物の輸出が増加した。一方、コムギや大豆油など主要な食料の輸入が増加しているだけでなく、これまではある程度を国内で製造してきた肥料についても、そのほとんどを輸入に依存するようになった。輸出を通しての国際市場との結びつきが再び強くなったと同時に、輸入を通しての結びつきも以前より強くなっている。グローバリゼーションの度合いを輸出入の量で計るとすれば、1990年代以降の経済自由化改革は農業部門のグローバリゼーションに拍車をかけている。

ただし、1990年代以降の農業のグローバリゼーションと、かつての一次産品輸出経済との違いは明確でない。1950年代までの輸出農産物の主役は綿や砂糖で、現在の主役は野菜や果物であるから、確かに品目は異なっている。そのことが農産品の生産・輸出構造の違いを伴ったものなのか、それを明らかにすることが今後の課題である。

---

<sup>1</sup> 1日あたりのカロリーの総摂取量は1961年2140、1971年2198、1981年2046、1991年1933、2001年2571（いずれもキロカロリー）となっている。1991年は経済危機の影響で大きく落ち込んだが、その後改善した。

<sup>2</sup> 都市部は住宅が100戸以上（約500人程度）集まっている地区、または地区（distrito、県、郡に次ぐ行政単位）の中心地を指す。それ以外は農村部となる。

(参考文献)

Instituto Cuánto. *Perú en números*. Lima: Instituto Cuánto. 各年版

INEI (Instituto Nacional de Estadística e Informática). *Peru: Compendio Estadístico*. Lima:  
Instituto Nacional de Estadístico e Informática. 各年版

Ministerio de Agricultura (1992). *1er compendio estadístico agrario 1950 – 1990*. Lima: Oficina  
de Estadísticas Agrarias.

Ministerio de Agricultura (1995). *La horticultura en el Perú 1974 – 1994*. Lima: Oficina de  
Información Agraria.

Oficina Nacional de Estadística y Censos (1969). *Anuario Estadística del Perú 1969*. Lima:  
Presidencia del República.

付表1 肥料の生産・輸入・販売

	窒素肥料			リン酸肥料			カリ肥料 消費量 (トン)	総消費量 (トン)	使用量 (Kg/Ha) (1)
	消費量 (トン)	生産量 (トン)	国内生 産比率	消費量 (トン)	生産量 (トン)	国内生 産比率			
1970	66,300	19,700	30%	13,000	6,500	50%	5,000	84,300	30
1971	71,663	24,636	34%	5,140	3,990	78%	5,139	81,942	29
1972	100,237	22,258	22%	10,098	4,203	42%	11,510	121,845	39
1973	80,492	21,120	26%	9,208	2,961	32%	7,871	97,571	31
1974	113,838	20,005	18%	15,800	5,900	37%	12,428	142,066	45
1975	83,549	33,627	40%	11,397	3,601	32%	9,448	104,394	33
1976	100,285	54,952	55%	17,042	3,974	23%	11,582	128,909	39
1977	107,116	68,831	64%	18,233	4,257	23%	13,840	139,189	41
1978	103,853	70,659	68%	20,161	4,473	22%	12,635	136,649	39
1979	88,433	66,866	76%	17,144	3,903	23%	11,771	117,348	34
1980	84,805	73,812	87%	19,722	3,949	20%	13,603	118,130	33
1981	100,589	86,079	86%	18,305	3,978	22%	12,845	131,739	37
1982	71,959	76,502	106%	16,700	3,332	20%	9,491	98,150	27
1983	52,873	31,000	59%	15,746	2,232	14%	9,794	78,413	21
1984	55,191	64,800	117%	17,870	1,330	7%	12,692	85,753	23
1985	47,822	67,400	141%	14,168	7,232	51%	13,513	75,503	20
1986	127,884	86,279	67%	29,070	4,000	14%	22,171	179,125	48
1987	159,549	65,911	41%	43,440	4,100	9%	28,890	231,879	61
1988	158,406	81,814	52%	40,219	4,720	12%	26,900	225,525	59
1989	113,156	36,153	32%	19,200	3,998	21%	19,756	152,112	40
1990	84,200	32,566	39%	12,768	4,713	37%	8,288	105,256	27
1991	58,641	19,992	34%	11,311	3,000	27%	5,700	75,652	19
1992	64,929	10,100	16%	10,843	3,500	32%	4,800	80,572	20
1993	98,400	11,130	11%	21,300	1,100	5%	18,997	138,697	34
1994	110,500	14,000	13%	39,700	1,684	4%	24,700	174,900	43
1995	129,200	15,900	12%	14,300	1,000	7%	9,800	153,300	38
1996	133,100	12,600	9%	33,600	2,400	7%	18,600	185,300	45
1997	149,700	11,500	8%	45,800	2,500	5%	19,400	214,900	52
1998	170,200	3,000	2%	47,400	3,000	6%	20,525	238,125	57
1999	168,070	0	0%	43,711	3,700	8%	27,044	238,825	56
2000	190,116	0	0%	45,028	3,328	7%	19,126	254,270	59
2001	198,866	0	0%	74,056	2,763	4%	41,564	314,486	73
2002	209,444	0	0%	51,889	2,538	5%	12,674	274,007	64

注 (1) ヘクタールあたり使用量は総消費量を耕地面積（単年作物＋多年作物）の合計で割ったもの。  
出所 FAOSTAT.

付表2 道路の総延長と登録自動車数

	総延長	km				登録自動車数 1000台
		舗装道路	簡易舗装	舗装無し	その他	
1980	58,690	6,317	12,580	15,025	24,768	486
1981	62,310	6,748	12,773	15,165	27,625	522
1982	65,930	7,178	12,965	15,305	30,482	564
1983	66,056	7,178	13,028	15,320	30,530	584
1984	67,769	7,206	13,534	16,101	30,928	591
1985	68,363	7,325	13,627	15,853	31,558	596
1986	69,942	7,459	13,538	15,940	33,005	604
1987	69,942	7,459	13,538	15,940	33,005	611
1988	69,942	7,459	13,538	15,940	33,005	617
1989	69,942	7,459	13,538	15,940	33,005	612
1990	69,942	7,564	13,475	15,898	33,005	606
1991	69,942	7,459	13,538	15,940	33,005	624
1992	69,942	7,624	13,484	15,867	32,967	673
1993	69,942	7,624	13,484	15,867	32,967	707
1994	69,942	7,624	13,484	15,867	32,967	761
1995	73,439	8,355	13,217	16,763	35,103	863
1996	73,766	8,565	13,280	16,876	35,045	937
1997	75,727	8,958	13,770	16,268	36,730	986
1998	78,034	10,051	18,535	13,848	35,600	1,056
1999	78,127	10,189	18,533	13,809	35,596	1,114
2000	78,213	10,574	18,719	13,373	35,548	1,163
2001	78,252	10,745	18,802	13,179	35,526	1,209
2002	78,319	11,044	18,947	12,839	35,488	1,252
2003	78,397	10,038	18,616	13,945	35,797	1,291
2004	78,554	11,074	17,097	14,028	36,356	1,305

注 1981、1988年はデータ無し。グラフ作成のため、前年と翌年の中間値を入力。

出所 1980 - 1989 INEI (1995). *Perú: Compendio Estadístico 1994-95*. Tomo 2, p. 495-499.

1990 - 1999 Instituto Cuánto (2003). *Perú en números*. p. 977

2000 - 2004 運輸通信省ホームページ ([www.mtc.gob.pe](http://www.mtc.gob.pe))。

付表3 農産物輸出入額の対総額・GDP比

	農産物 輸出額(1)	農産物 輸入額(2)	農産物貿易 収支	輸出総額に 占める割合
	(100万ドル)			
1955	126			47.1%
1956	142			46.0%
1957	149			46.5%
1958	139			49.3%
1959	137			43.9%
1960	155			36.3%
1961	183			37.2%
1962	197			36.9%
1963	202			37.7%
1964	212			31.9%
1965	171			25.8%
1966	178			23.3%
1967	154			20.4%
1968	172			19.9%
1969	152			17.6%
1970	165			16.0%
1971	158			17.8%
1972	192			20.3%
1973	230			20.7%
1974	347			23.1%
1975	383			28.8%
1976	279			20.8%
1977	349			20.2%
1978	293			14.9%
1979	403			11.0%
1980	276			7.0%
1981	223	582	-359	6.9%
1982	284	400	-116	8.6%
1983	251	486	-235	8.3%
1984	275	331	-56	8.8%
1985	319	218	101	10.5%
1986	408	394	14	15.9%
1987	262	436	-174	9.7%
1988	263	409	-146	9.6%
1989	351	425	-74	9.9%
1990	293	557	-264	8.8%
1991	352	430	-78	10.2%
1992	279	624	-345	7.8%
1993	270	625	-355	8.0%
1994	473	754	-281	10.7%
1995	621	842	-221	11.3%
1996	620	1049	-429	10.5%
1997	812	961	-149	11.9%
1998	625	1072	-447	10.9%
1999	688	786	-98	11.3%
2000	643	663	-20	9.3%
2001	645	758	-113	9.2%
2002	770	758	12	10.1%

注 (1) 1969年までは伝統的輸出農産物（綿花、砂糖、コーヒー）のみの合計、それ以降は非伝統輸出農産物も含む  
(2) 農畜産品ほかアグロインダストリー原料、農畜産業投入財も含む  
出所 1970 - 1984 INEI (1989). *Perú: Compendio Estadística* . p. 584.  
1985 - 1989 INEI (1995). *Perú: Compendio Estadístico 1994-95* . Tomo 3.  
1990 - 1991 Instituto Cuánto (1999). *Perú en numeros*.  
1992 - 2002 Instituto Cuánto (2003). *Perú en numeros* .

付表4 主要農産物の輸出

輸出額 (FOB、100万ドル)

	伝統産品			非伝統産品		
	綿	砂糖	コーヒー	アスパラ (生鮮)	アスパラ (缶詰)	マンゴ
1970	52	61	44			
1971	45	69	36			
1972	47	86	49			
1973	63	78	64			
1974	97	194	35			
1975	53	269	49			
1976	71	85	106			
1977	48	78	198			
1978	38	47	168			
1979	49	34	245			
1980	72	13	140		3	
1981	63		107		4	
1982	85	20	114		5	
1983	44	35	116		6	
1984	23	49	126		9	
1985	51	23	151	1	6	
1986	39	22	275		9	
1987	19	15	143		14	
1988	30	16	121	2	19	
1989	66	20	153		21	
1990	42	36	98	4	27	2
1991	58	33	119		45	2
1992	23	23	69	8	54	6
1993	4	13	60	14	60	5
1994	5	31	207	17	62	7
1995	25	30	286	22	77	
1996	30	37	223	27	92	
1997	32	34	397	32	91	
1998	4	27	287	36	78	12
1999	2	9	268	47	87	23
2000	5	16	223	54	82	23
2001	5	17	180	64	81	27
2002	2	16	188	85	85	33
2003	5	19	181	108	81	32
2004	6	15	290	140	79	43

輸出量 (1000トン)

	伝統産品			非伝統産品		
	綿	砂糖	コーヒー	アスパラ (生鮮)	アスパラ (缶詰)	マンゴ
1970	1456	403	44			
1971	1104	429	43			
1972	1086	481	55			
1973	1019	407	58			
1974	1034	462	27			
1975	737	422	42			
1976	776	284	47			
1977	461	412	44			
1978	394	266	54			
1979	434	181	69			
1980	702	53	44			3
1981	685		46			4
1982	1287	59	43			4
1983	670	89	55			5
1984	246	116	52			6
1985	624	64	60	0		5
1986	474	55	75	0		9
1987	189	33	70	0		11
1988	218	36	49	1		13
1989	734	43	86	0		16
1990	430	77	66	3		24
1991	554	76	75	0		37
1992	209	53	61	7		43
1993	41	29	49	12		54
1994	2	70	68	12		61
1995	8	65	105	13		66
1996	12	83	100	16		69
1997	14	79	98	18		70
1998	2	60	116	17		36
1999	1	21	146	27		40
2000	3	42	140	37		40
2001	2	42	160	41		42
2002	1	42	168	53		44
2003	3	61	150	67		43
2004	3	42	191	72		41

出所 1970-1984 INEI (1992) *Perú: compendio Estadístico 1991-92*. Tomo 3, pp. 313-314  
 1985-1993 INEI (1995) *Perú: Compendio Estadístico 1994-95*. Tomo 3, p. 295  
 1994-2000 INEI (2001) *Perú: Compendio Estadístico 2001*. pp. 684-686  
 2001-2004 FAOSTAT (2005).  
 1998-2004 アスパラガス、マンゴ Global Trade Atlas.

付表5 主要農産物輸入量 (トン)

	1981	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991
コメ	136782	56847	95352	47631	-	188142	211369	17168	-	239071	243569
飼料用メイズ	359028	480737	425021	115042	250232	354534	479673	586722	-	479388	476083
コムギ	941732	943741	966987	963992	825403	1083344	982585	876608	-	597851	563423
大豆油	61424	63105	92549	49575	31966	48660	70670	81628	-	53153	65469
大豆油(精製)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10036	1320
脱脂粉乳LPD	24520	29674	22227	19134	13443	22059	26507	16498		13188	12423
粉乳LEP	2050	1649	3000	4230	6275	23680	27297	19773		10890	9604
大豆粕										128472	125774

	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002
コメ	418333	336202	246243	181972	412721	234214	246876	149875	66698	62680	34166
飼料用メイズ	749140	611827	724371	953849	740746	931510	1163528	1032737	846609	855583	915024
コムギ	860744	911989	1076626	1105389	1124653	1156227	1221429	1236630	1210455	1406065	1328954
大豆油	43449	48136	102850	72864	70508	124022	154723	100448	107912	173476	209225
大豆油(精製)	24015	14548	22095	15713	17035	32546	16052	15017	14868	23176	30533
脱脂粉乳LPD	21016	22788	10713	9789	9431	12207	15326	13938	13641	8940	9164
粉乳LEP	8404	8367	32199	3963	35489	32564	26727	23360	14452	13295	8943
大豆粕	137232	130493	174692	228885	220668	254073	363123	437068	461184	419386	543378

注  
出所

- はデータなし。

1981 - 1988 INEI (1989). *Perú: Compendio Estadístico* . p. 592

1990-1993 INEI (1995). *Perú: Compendio Estadístico 1994-95* . Tomo 3, p. 315

1994-2000 Instituto Cuánto (2003). *Perú en números* . p. 1163

調査研究報告書  
地域研究センター 2005 - - 05  
グローバリゼーションと途上国農村市場の変化  
統計的概観

---

---

2006年3月15日発行

発行所 独立行政法人 日本貿易振興機構

アジア経済研究所

〒261-8545 千葉県千葉市美浜区若葉3-2-2

電話 043-299-9500

---

---

無断複写・複製・転載等を禁じます。 印刷 (有)騰光社